

令和 4 年 6 月 29 日現在

機関番号：32720

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K11790

研究課題名(和文)大災害後の社会におけるネパール女性のノンフォーマル教育活動の質的探求

研究課題名(英文)Qualitative research for non-formal educational activities of Nepalese women in post-disaster society

研究代表者

長岡 智寿子(Nagaoka, Chizuko)

田園調布学園大学・人間科学部・准教授

研究者番号：20738273

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は大災害(ゴルカ大地震：2015年4月25日)を経験したネパールの農村において、その復興の過程に女性たちがどのように参画し、また、どのような生活課題が生じ、その克服に向けてどのような活動が展開したのか質的に探究することであった。その最も重要な課題は「情報へのアクセス」を図ることであった。

2020年2月以降、COVID-19の感染拡大により、研究計画、研究方法等再検討を要することになった。しかし、人びとの経験や記憶を記録することを念頭にオンラインによる取材を重ね、放送番組「Bungamati Aawaj」(2021)、「Hamro Pahal」(2022)を制作、放送実施することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の調査地は、ネパールの首都カトマンズ近郊の農村(Bungamati, Lalitpur)である。村落に暮らす女性の多くは生活に必要とされる情報にアクセスすることが困難な状況に置かれている。特に、災害時における情報は安全の確保や基本的人権の観点からも不可欠である。特に、COVID-19パンデミック下における研究活動は困難を極めた。しかし、本研究においては、ラジオという媒体を有効活用することにより、口承中心の社会におけるメディアの役割、そして、人びとの経験や記憶を音声により「記憶」することの社会的意義を改めて確認することとなった。このとは、学術的にも意義があるものと判断する次第である。

研究成果の概要(英文)：In this study, in a rural area of Nepal that experienced a major disaster (Gorka earthquake: on 25th, April, 2015), how women participated in the process of reconstruction and what kind of life issues arose. The challenge was to explore what kind of learning activities were developed to overcome them based on the field survey. The most important issues for women living in the study area was "securing access to information." In addition, after February 2020, due to the pandemic of the covid-19, it became necessary to reexamine the research plan, research method, etc. However, I recognized to record their experiences and memories of disasters. So, we could conduct broadcast programs "Bungamati Aawaj" (2021) and "Hamro Pahal" (2022) was produced and broadcast with the cooperation of local researchers and community radio stations. As the result of this research, I would like to widely disseminate it.

研究分野：成人教育、生涯学習論

キーワード：成人教育 生涯学習 社会教育 ジェンダー 災害

## 1. 研究開始当初の背景

(1) これまで南アジアのネパール連邦共和国(以下ネパール)を中心に、成人女性を対象にした識字教育について調査研究を行ってきた。ネパール政府は Literacy Programme(識字教育)を通じて貧困の撲滅、生活の向上、および、女性の社会参加の促進を目指してきた。とりわけ、90 年以降は EFA 運動の展開により、15 歳以上の識字率が男性 70.7%、女性 57.4%(GMR,Unesco2015)と大きく向上した。伝統的な生活体系がグローバル化の下で急変を迫られる中、人々にとって基礎教育の機会を得ることはや不可欠となり、これまで以上に女性が社会に参画することを実現させていくためのアプローチが模索されている。その背景には、何よりも情報へのアクセスが求められている。

(2) 2015 年 4 月に発生したゴルカ大地震により、ネパールの首都周辺であるカトマンズ盆地は甚大な被害を受けた。大災害からの復興を目指す社会において、生活の再建のために就労の機会を求める女性も増え、読み書き計算という基礎的な能力の必要性が増している。最も重視されるべきことは、女性が情報へのアクセスの機会を確保することであった。本研究では、女性が単に職を得て労働に従事することや社会的地位を獲得することに焦点を当てた社会参加の様相を把握するのではなく、教育学の視点から女性の社会への参画の意義を質的に検討することとした。

## 2. 研究の目的

本研究では、ネパール女性の社会参加をめざすノンフォーマルな教育活動として、情報へのアクセスを促す活動に焦点を当て、その社会的意義を質的に検討することを目的とした。社会のグローバル化の過程において、女性も情報へアクセスする術を理解し、学ぶことは安全の確保という観点からも不可欠である。とりわけ、2015 年 4 月下旬、首都カトマンズ盆地を中心に発生した大地震(M7.9)により、多くの死傷者や歴史的建造物の倒壊等、甚大な被害が生じたことは人々の記憶に新しい。大震災後の調査により、被害は貧困層や低カースト層の女性に大きく負担のしかかる不均衡な状況を生み出しており、新たな就労の機会を求める人が増えているものの、女性は就労条件も悪く、劣悪な環境の中で低賃金労働に従事せざるをえない現状が明らかになった(NAGAOKA,2017)。社会の復興に向けて、女性や社会的マイノリティの社会参加を促進するための研究は最優先課題であり、また、情報にアクセスすることの重要性を具体的に学び、実践することが欠かせない。

したがって、本研究では、報道機関で活動する女性ジャーナリストらの実践経験を検討するとともに、ネパール女性たちの日常生活における情報収集にまつわる多様な実践知についても考察し、女性が社会に参画することの意義を質的に問うていくことを課題とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 文献研究

女性ジャーナリストらの実践活動(ラジオ局の運営、番組制作、教育活動等)の実態把握と検証  
農村女性らのライフヒストリー収集、分析  
・理論研究及び、フィールドワークの実施、  
・フィールドワークの継続、及び、女性の社会活動に関する 訪問調査、課題分析  
・ライフヒストリーの分析、及び、女性の教育支援のための学習活動のモデル検証

### (2) 訪問調査

現地ジャーナリストグループ(Sancharika Samuha)、現地コミュニティラジオ放送局(Radio Sagarmatha、Radio Lumbini、Radio Mukti)を中心に訪問調査を行い、女性のための支援活動の実践や経験について情報収集を行う。

農村調査研究の調査地は Lalitpur 郡 Bungamati 村に特化することとした。Bungamati 村はゴルカ大地震により甚大な被害を受け、今日においても復興の途上にある。

インタビューにおける分析の枠組み

- ・インフォーマントを取り巻く共同体内の女性の役割、関係性について(生育歴の把握)
- ・近代的教育観に対する伝統的教育観について(誕生から死までの成長プロセスに着目)
- ・共同体内の宗教観とその現実的な影響について(グローバル化する社会情勢も考慮)
- ・家庭内外における女性の労働状況について(特に、経済的活動を中心に把握する)

## 4. 研究成果

(1) 初年度の訪問調査は、現地ジャーナリストグループ(Sancharika Samuha)、現地コミュニティラジオ放送局(Radio Sagarmatha、Radio Lumbini、Radio Mukti)を中心に訪問調査を実施した。特に、女性のための教育支援活動の実践や経験について情報収集を行うことができた。偶然にも、訪問日程が International Women's Day であったことから、報道機関による各種イベントが開催されており、見学することができた。農村調査研究については、調査地 Lalitpur 郡 Bungamati 村を訪問した。Bungamati 村は大地震による被害が大きく、現在も仮設住居が建ち並んでいる。震災後の建物の再建にレンガ(ブロック)が大量に必要なことから、村落周辺にレンガ工場が増設されていた。また、タライ地域とカトマンズ盆

地をつなぐ幹線道路の建設も進み、村落の生活環境は環境汚染などが指摘され、震災以降、さらに状況が悪くなっていることが確認された。

Bungamati 村での女性たちのインタビュー調査では、家庭内外における女性の労働状況について、特に、経済的活動を中心に把握することを重視した。その結果、家屋の再建に行政から補助を求める人々の声が高まる中で、地域行政は都市部のビルや幹線道路の建設を優先にしているため、復興に向けた動きはより複雑化し、地域行政は住民を無視しているかのようにも感じられた。

また、アジアの女性の識字教育の現状について、日本と韓国の識字教室を訪問する機会も得た。当初の計画にはなかったものの、異なる角度から女性のノンフォーマルな学びの有効性について考察することができたことは、本研究において大変有意義であった。

## (2) 令和元年度

本研究は、2015年4月25日に発生したゴルカ大地震後の社会において、生活の再建を目指す人々が取り組んできた数々の実践の中で、女性たちの社会参画の状況に着目し、その質的な状況分析を目的とするものである。主要調査地として Lalitpur 郡、Bungamati 村 Koincha 地区に暮らす女性たちの行動に焦点を据えるものであるが、その背景には、以前に研究代表者が同地区にて識字教室を実施したことが要因となっている。震災後の生活の中で学習活動がどのように展開されてきたのか、質的に探究していくことが学習効果を把握する上で重要であること、何よりも人々の生活経験を将来に向けて「記録」するという観点からも意義あるものと考えている。

具体的には、Lalitpur 郡を拠点に活動するコミュニティラジオ Radio Sagarmatha FM と共同で人々のインタビューの記録をまとめ、「Bungamati Awaji」(ブンガマティ村の人々の声)という放送番組を制作し、実施した。取材の過程で明らかになったことは、大震災から約5年を経た時点での村落の状況は、震災以前にもまして、悲惨な状態になってしまっていたことである。

その理由は、インドとの国境沿いであるタライ地域からカトマンズ盆地まで幹線道路を建設する国家プロジェクトが決定され、村落の多くの土地が国に没収されてしまったこと。カトマンズ盆地の復興に必要なレンガ窯が複数、村落周辺に建設され、日々、黒煙が窯の煙突から流れ出る状況が続き、空気の汚染により肺を患う人々が増していること。土地を持たない村落の人々は震災以降、仮設住居の暮らしが続いているため、劣悪な環境による心身の健康被害が深刻さを増していること、である。そのため、現地の研究協力者の協力を得て、村人らと意見交換会を開催し、地域行政官らに早急に支援策を見直すこと、現在の生活環境の改善に向けて強く訴える機会を設け、コミュニティラジオ放送の番組としても放送することで現状を広く伝えていくこととした。

## (3) 令和2年～3年度

昨年度は調査対象地である Lalitpur 郡 Bungamati 村 Koincha 地区に暮らす人々に焦点を当てた復興支援のためのラジオ放送番組「Bungamati Aawaj」を Radio Sagarmatha, Nepal Foster Mate と共同で制作し、放送実施した。また、取材の過程で明らかになった問題について、その解決策を探るため、Koincha 地区の人々と地域の行政関係者が集い、意見を交換する機会も企画し、実施することができた。しかし、2020年3月中旬以降、COVID-19の感染拡大が深刻化し、現地への渡航は不可能な状態となってしまった。可能な範囲でプロジェクトを遂行すべく、現地研究協力者とはオンラインで議論を重ねた。その結果、これまでの調査の記録や放送実施したラジオ放送番組のエッセンスをまとめたブックレットを編集し、発行した。ブックレットはネパール語と英語に翻訳し、プロジェクトに関わった人々や調査地周辺の行政機関、各種援助団体にも配布した。しばらく訪問調査は不可能となったため、本研究の期間を1年間延長することとなった。しかし、訪問調査が実現しなかったものの、本プロジェクトの意義と復興支援に向けた今後の見通しについて検討するための「記録」をまとめることにつながった。本研究における主な活動の記録は、次のとおりである。

- ・『Bungamati Aawaj』、Samjhana Maharjhan, Kaji Ratna Shakya, Chizuko NAGAOKA, 2021
- ・「地域づくりとメディアの役割をめぐって 社会教育活動としてのラジオ放送番組 Bungamati Aawaj」の事例-、『田園調布学園大学紀要』、第15号 2020年度
- ・「コロナ禍におけるネパール農村女性らの生活課題 - 「災害」をめぐる予備的考察 - 」、『田園調布学園大学紀要』、第16号 2021年度
- ・『Hamro Pahal』 Samjhana Maharjhan, Kaji Ratna Shakya, Chizuko NAGAOKA, 2022

本研究は大災害(ゴルカ大地震:2015年4月25日)を経験したネパールの農村において、その復興の過程に女性たちがどのように参画し、また、どのような生活課題が生じ、その克服に向けてどのような活動が展開したのか質的に探究することであった。繰り返すことになるが、その最も重要な課題は、女性の情報へのアクセスを図ることであった。研究期間中、COVID-19の感染拡大により、研究計画、研究方法等再検討を要することになったが、人びとの大地震の経験や記憶を記録することを念頭にオンラインによる取材を重ね、放送番組「Bungamati Aawaj」(2021)の他、コロナ禍の農村社会の課題についても「Hamro Pahal」(2022)として編集し、放送実施することができた。災害時における情報は安全の確保や基本的な人権の観点からも不可欠である。特に、COVID-19 パンデミック下における研究活動は困難を極めた。

しかし、本研究においては、ラジオという媒体を有効活用することにより、口承中心の社会におけるメディアの役割、そして、人びとの経験や記憶を音声により「記憶」することの社会的意義を改めて確認す

ることとなった。このことは学術的にも意義があるものと考え。同時に、社会変動期のネパールにおいて、ノンフォーマルな学習活動の可能性をも探求する独創的、かつ、生涯学習活動の展開としても意義あるものと考え。なにより、女性はインフォーマルに家庭や地域社会の中で次世代を育成する担い手として大きな役割を果たしてきていることに違いない。人が誕生し、成長を遂げていく過程において、女性は自らが「文化の継承者」としての役割をも付与している。これらの経験は、社会教育学がその研究対象とする「地域づくり」や人々の生活の在り様を示す「地域性」等にどのように向き合うべきであるのか、また、社会教育はどのように応えることができるのかを問い直す作業でもあったといえる。

#### (4) 地域づくりを担うメディアの役割に着目して: コミュニティラジオ放送の価値

本研究における問題意識として、地域づくりを育むメディアの役割についても言及しておかなければならない。知識基盤社会といわれる今日、私たちの暮らしを支える様々な知識の体系の中で、情報へのアクセスは欠かすことができない。もっとも、一口に「情報」といっても社会生活の中では多様な形態の情報が存在しており、本研究で事例とするネパール社会では、都市部においてもインターネットのアクセス環境は完全に整備されてはいない。「情報」とは口承、または音声により伝授される形態が優勢であるといえよう。しかし、世界の最貧国の一つに位置づけられるこの国においても、情報へのアクセスはもはや人々の生活課題であり、ラジオやインターネットの利用を促す教育開発政策が注目されている。特に、農村に暮らす女性が生活に必要な情報を摂取し、また、その利用を試みることを学ぶ機会が求められている。そのような学習活動は成人教育、社会教育活動として位置づけられることになるが、「地域づくり」においてはノンフォーマルな学習活動(社会教育、成人教育)のみならず、インフォーマルな教育活動も地域を支える教育的価値を備えている。本研究では、地域社会に根差す特有の事情やその地で暮らす人々の生き方を支えている社会、文化的背景を踏まえ、「地域づくり」とメディアを活用した成人の教育活動を検討することとなった。ノンフォーマルな学びの様相は実に多様であり、可能性に溢れているものと考え。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 長岡智寿子	4. 巻 第16号
2. 論文標題 コロナ禍におけるネパール農村女性らの生活課題：「災害」をめぐる予備的考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 田園調布学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 85-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長岡智寿子	4. 巻 15
2. 論文標題 地域づくりとメディアの役割をめぐって 社会教育活動としてのラジオ放送番組「Bungamati Aawaj」の事例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田園調布学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 59-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長岡智寿子	4. 巻 14
2. 論文標題 ネパール女性の社会参加の様相 - 「声」の民主主義の展開 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田園調布学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 89 - 100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長岡智寿子	4. 巻 4月
2. 論文標題 読み書きは人の生き方をどう変えたのか？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新英語教育	6. 最初と最後の頁 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 長岡智寿子
2. 発表標題 映画「こんばんは」英語字幕版制作にあたって
3. 学会等名 夜間中学と教育を語る会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長岡智寿子
2. 発表標題 「災害」をめぐる闘い：ネパール女性の語りと社会参加の様相から
3. 学会等名 日本社会教育学会 第68回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長岡智寿子
2. 発表標題 「リテラシー活動の展開：ネパールにおけるコミュニティラジオ放送との共同研究を踏まえて」
3. 学会等名 基礎教育保障学会第5回研究大会シンポジウム「コロナ禍時代に基礎教育保障からメディア情報リテラシーを考える」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長岡智寿子
2. 発表標題 ネパール女性の社会参加と識字教育～おとなになってから基礎を学ぶ～
3. 学会等名 夜間中学校と教育を語る会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Maharjhan, Shakya and Nagaoka	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Ujyallo Radio Network	5. 総ページ数 200
3. 書名 Hamuro Pahal	

1. 著者名 Radio Sagarmatha, Nepal Foster Mate, Chizuko NAGAOKA	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Unique Pre-Printing Home	5. 総ページ数 88
3. 書名 Bungamati Aawaj	

1. 著者名 Nagaoka, Chizuko and Mclean, Gary	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 340
3. 書名 Women's Social Participation: Japan in an Asian Context, In Nakamura, Yoshie Tomozumi, Horimoto, Mayuko, McLean, Gary N. (Eds.) Japanese Women in Leadership	

1. 著者名 長岡智寿子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 216
3. 書名 第11章 国際理解を育む視点、『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』、寺崎 里水・坂本 旬 編	

1. 著者名 長岡智寿子、近藤牧子 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 198
3. 書名 生涯学習のグローバルな展開 ユネスコ国際成人教育会議がつなぐSDG4の達成	

1. 著者名 長岡智寿子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 396
3. 書名 第33章「ノンフォーマル教育：女性のための識字教育を中心に」『エリア・スタディーズ～現代ネパールを知るための60章』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------